

南の国の「ナンデシ」税理士

成功へのキセキ

第70回 世界一やさしい管理会計の本が発売になります

新刊が発売になります。

メインタイトルは、「マンガでわかる管理会計」。

サブタイトルは、「はじめてでもわかる儲けのからくり」。

管理会計の本を書きませんか?とお話をいただいた頃、まさか新型コロナウイルスが蔓延し、たくさんの店舗や会社が休業を余儀なくされる世の中になるなんて、夢にも思いませんでした。

管理会計は、自粛のために傷ついた企業の復活を助ける強力な武器として、必要だ!

そう信じて急遽、本文を書き直し、帯には、「リーダーのための必勝ツール、管理会計を学ぶ!」に加えて、「ポストコロナ時代を生き残るための経営戦略」というメッセージを載せました。

この本の原稿を書き始めた当時、日本経済は絶好調でした。グローバル化が進み、大企業だけでなく、志の高い中小企業がどんどん海外に進出し、インターネットの広がりもあって、世界がとてども近く感じられる時代でした。

かくいう私も、日本を飛び出して、ミャンマーに会計事務所を開設。4大監査法人ならいざ知らず、個人レベルの会計事務所が、ミャンマーに現地法人をつくるなんて、無謀とも思えるチャレンジでした。告白すると、初めてミナミの国に行った時は、ミャンマーのことをほとんど知りませんでした。白地図

図をみて、正確な場所を指し示すことが出来たかさえ、怪しいレベル。

当時、ミャンマーは経済制裁が解除されたばかりで、最後のフロンティアなどと呼ばれていましたが、国民総生産で言えばアジアの最貧国。街を走る車はメイドインジャ

パンのオンボロ中古車で、車体には穴が空いていました。停電は当たり前で、エアコンの切れた真っ暗闇のホテルの部屋で、この街に会計事務所を作ろうと、本能の声に導かれるまま、心に決めたのです。

言うまでもなく、ITや鉄道、道路、建築、製造、通信など、あらゆる分野で、日本の技術はミャンマーを凌駕していました。

私の専門は会計と税務です。その頃は、まともに帳簿をつけているミャンマー企業はほぼ皆無。会計ソフトなんてもちろんありませんし、エクセルを使えるミャンマー人は、ほとんどいませんでした。

まずは、現地の会計レベルを知りたくて、専門学校を見学に行ったときのこと。20歳そこそこの若者たちが勉強しているのは、管理会計でした。エクセルのSUM関数すら知らない彼らが、「10%の値引きと10個に1個プレゼントしたときは、どちらが得か?」なんて授業を熱心に受講していたのです。

日本では、会計と言えば財務会計が主流で、決算書の読み方は勉強しても、管理会計はビジネスパーソンの常識とは言えません。もちろん決算書は大事ですが、若いうちから当たり前のように管理会計を勉強し、利益を生む仕組みを知っている彼らと戦って、日本企業は10年後にも優位でいられるのだろうか…。そんな衝撃を受けたのが、本書を書きたいと思ったきっかけです。

そしてゲラチェックも佳境に入った頃、新型コロナウイルスが猛威をふるい、たくさんの企業が自粛または休業を余儀なくされてしまいました。

マスコミでクローズアップされるのは、飲食店や観光産業ですが、自粛の影響は多岐にわたります。エステや美容院、アパレルなども売上が激減しました。8割減、9割減は当たり前。2か月の間、売上が0という会社も珍しくありません。

ようやく、緊急事態宣言は解除されましたが、いきなりコロナ前と同じ売上が望める会社は少ないでしょう。新型コロナウイルスは消えてなくなった訳ではないので、ポストコ

◆筆者 原 尚美 (はら なおみ) プロフィール

税理士。東京外国語大学卒業。TACの全日本答練(現:全国公開模試)「財務諸表論」「法人税法」で全国1位の成績を収め、税理士試験に合格。直後に出産。育児と両立させるため、1日3時間だけの会計事務所からスタートし、現在は全員女性のスタッフ約30名の規模にまで成長。一部上場企業の子会社やグローバル企業の日本子会社などをクライアントにもつ。ミャンマーに会計サービスの会社を設立し、海外進出支援にも力を入れている。著書に『小さな会社の総務・経理の仕事がわかる本』『小さな起業のファイナンス』(いずれもソーテック社)、『51の質問に答えるだけのできる「事業計画書」のつくり方(日本実業出版社)』『トコトわかる株式会社のつくり方(新星出版社)』『世界一ラクにできる確定申告(技術評論社)』『一生食っていくための土業の営業術(中経出版)』など。その他、「経理ウーマン」「デイの経営と運営」など雑誌への寄稿や、商工会議所、中小企業投資育成株式会社、日本政策金融公庫などでの、セミナー実績も多数。

コロナに向けて、事業規模を縮小したり、新しいビジネスモデルの構築を模索していかなければなりません。

自粛期間の間に、企業内部に蓄えていた資金は底をついています。景気が良ければトライ&エラーも可能ですが、思い通りにいかなかったら、やり直しをすればいい、という余裕のある企業は少ないのではないのでしょうか。

経営者やリーダーの最大の責務は、意思決定です。今や世の中の価値観は変わってしまい、何が正しいのか、頼れる道しるべもありません。そんな経営者にとって唯一頼れる武器、それは会計、特に管理会計です。

正確な記帳処理で企業の現在地を示してくれるのが、財務会計。

経営者の意思決定を助け、企業の進むべきルートを数値化してくれるのが、管理会計。

財務会計と管理会計は、企業がポストコロナを生き残るための、経営の両輪と言っても過言ではありません。

本書は、私に関わったリアルな事例をもとに、復活を果たしたクライアントたちのことを思いながら、ストーリー形式で書いたものです。損益分岐点分析や、原価計算など、難しい用語や基本的な考え方を、会計のしろうとでも抵抗

なく読めるように、マンガ形式にしました。

主人公は、高校2年生の「桃子」。パパの会社「さくら製菓」は、新型コロナウイルスの影響を受けて、資金難に陥り、銀行の管理下に置かれてしまいました。桃子の自慢だった銀座店も、閉鎖の危機に立たされてしまいます。

お菓子づくりは天才でも、数字に弱いパパを助けようと、税理士の百合先生の助けを借りて、管理会計を勉強し、さくら製菓を危機から救おうとするお話です。

次々と繰り出される銀行からの要求。

値引き戦略とおまけ戦略はどちらが得か?

外注と自社生産は、どちらが得か?

新商品の開発は、是か非か?

コストカットはどこから手をつけるべきか?

意思決定の場面で、管理会計をどう使うのか?

さくら製菓は、銀座店を撤退してしまうのか?

桃子と一緒に、ハラハラドキドキしながら、楽しく管理会計が学べるように工夫しました。どうか、コロナと共に生きる皆さまの役に立ちますように!

願いをこめて、本書をお届けします。

令和2年
6月27日
発売!!

マンガでわかる管理会計: はじめてでもわかる儲けのからくり

原 尚美 / 著、鎌尾こんぶ / 作画、ウエルテ / 制作
(オーム社) 2,000円+税

利益を生み出す管理会計のしくみと基本が、マンガで楽しくわかる!

本書は、お菓子づくりは天才だけど、めっきり数字に弱い父親の和菓子会社を経営の危機から救いたいと、女子高生の桃子が税理士の百合先生に管理会計を教わるストーリー形式の入門書です。

管理会計とは、会社のありのままの状態を把握し、収益やコストの構造を分析し、未来の利益を予測するためのノウハウです。ポストコロナを生き残るためには、数値に基づいた科学的な経営が求められます。経営者やリーダーの責務は決断です。管理会計は、意思決定の場面で、最善の道を示してくれる唯一の拠り所といっても過言ではありません。

値引き戦略とおまけ戦略はどちらが得か、外注と自社生産はどちらが得か、切り捨てるべき商品と力を入れる商品の見分け方など、経営の意思決定の場面で主人公の桃子と一緒に、ハラハラドキドキしながら、楽しく実践的に学べる本です。

